

【別紙7】

⑦ 今後研修会で取り上げてほしいテーマやその他要望

- ・ 診療報酬、介護報酬に関する説明会、またはそれに伴う各病院の取り組み等が分かれば非常に参考になる。
- ・ 地域のネットワーク
- ・ 他医療機関の相談員の業務内容が知りたい。
- ・ 介護の現場から見た医療現場とはどのようなものか、どのように思っておられるかが知れたら嬉しいです。
- ・ 電話での情報収集のポイントや情報の伝え方、話し方なども含めて接遇の研修があればありがたいです。普段顔が見えないところで業務をすることが多いと思います。特に自法人以外との連携ではそうなると思います。気持ちよく連携できれば、患者様にもよい医療が提供できると思います。
- ・ 高次脳機能障害患者さんの支援。
- ・ 院内で悩みや課題が解決できないような場合、どのような機関、組織が、どのような相談にのってくれるのか、具体的に教えていただければありがたいです。
- ・ 在宅診療をしていただける医師が少ないので、在宅医との連携の取り方がスムーズになれば。
- ・ 診療報酬や介護報酬が改定となった時に具体例を挙げての研修など。
- ・ 専門職から見たそれぞれの連携について学びたい。PT・OTやそういった団体が主催して下さると面白いと思います。
- ・ 後期高齢者の医療のあり方（認知症があり大腿骨骨折で入院した方（80～90代）で、回復期リハビリ転院を本人拒否、しかし家族が希望する場合／がん化学療法をどこまでするのかなど）
- ・ 同一医療圏内での患者情報共有システムモデルの構築について（行政、医療機関、訪問介護、訪問看護、ケアマネ等）
- ・ リスクが高い高齢者を地域でどのように見守っていくかについて
- ・ 情報共有のための「地域の多職種が連携するバス」を作成・運用できないか（要望）
- ・ 職能団体とは別で、私病協での研修を通し、同じ職種同士の横のつながりの創出を図りたい。
- ・ 地域包括ケアに関して（運営に際しての対応点や、患者・家族への説明方法等）
- ・ 在宅困難事例を在宅へ繋げた成功例の検討会
- ・ 今回アンケートに答えた結果をまとめたものを必ず下さい。京都府内のこのような情報データをまとめていただけるのは楽しみです。
- ・ 緩和医療、認知症について、すでに講習会は行われているかと存じます。しかし、高齢者が増加傾向にあり、より実践的な研修をして欲しいと思います。
- ・ 認知症等による食事拒否のある患者への対応と、その家族への支援方法について
- ・ 歯科医師との連携について
- ・ 認知症の方の情報の連携
- ・ 倫理問題
- ・ 意思決定支援
- ・ 在宅での看取り
- ・ 多職種が同じテーマで学び合い、互いの役割や特性を理解しあえるような研修をお願いしたいです。
- ・ ますます在宅が必要になってくると思います。介護も巻き込んだ取り組みが出来たらと考えています。
- ・ 急性期からの受け入れが、情報の食い違いから患者さんに迷惑をかけることにもなりかねません。情報のやり取りの工夫があれば教えて下さい。
- ・ 病院では分からない在宅での難しい課題をテーマとした研修をしてほしいです。患者様が退院されたら後は分からないケースが多いので、退院されてスムーズに在宅で医療やサービスを受けておられる症例等を教えてほしいです。
- ・ 在宅医療の推進

【別紙7】⑦今後研修会で取り上げてほしいテーマやその他要望

-
- ・ 患者さん主体のカンファレンスの持ち方

 - ・ 地域包括ケア病棟について

 - ・ 終末期における在宅や施設での看取りについて

 - ・ 連携業務に関する職種の研修会の開催を希望します。

 - ・ ターミナルケア

 - ・ 「顔の見える地域連携」のための取り組みがあれば嬉しいです。

 - ・ 第二日赤のような、社会福祉事業部が公的にあれば相談したいことが沢山ある。

 - ・ 各機関の連携の実際と取り組み（事例を挙げながら）

 - ・ 地域包括ケアの連携

 - ・ 保護責任者が不在の場合、治療上の説明や同意、決定責任をどのように捉え対応していくか。法的な根拠も含め検討が必要ではないか。

 - ・ 平成27年度介護保険改定について

 - ・ 認知症ケアについて

 - ・ 顔が見える連携の機会を地域別にもてると、日々横のつながりがしやすくなると思う。各病院や診療所の紹介や懇談会も兼ねた研修等も有効では。
-